

フラワー・ドラム・ソング (1961)

FLOWER DRUM SONG

メディア 映画

ジャンル ミュージカル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 133分

初公開日 1962/05/15

公開情報 U N I

【解説】

香港からサンフランシスコに密入国した元北京大学教授のリー博士と娘メイ（ミヨシ梅木）は、見合いの相手であるサミー・フォンを、彼が経営するクラブ“天の園”に訪ねるがけんもほろろに、名士ワン御大の家に押しつけられる。御大は息子ター（ジェームズ繁田）の嫁を探しており、慎み深い中国女性の典型のメイをいたく気に入る。ターは大学生で、すっかり米国ナイズされた弟に引きかえ、まだ中華的メンタリティを持ち合わせており、サミーのクラブで唄うリンダ（N・クワン）とつきあっていたが、彼女は心の底ではサミーとの結婚を望んでいた。ターを慕うお針子のヘレンは優しい気性で、女性にもてる彼をただ見守る他なかった。御大の義妹リャン夫人は市民権講座を、ターは大学を卒業。同時にリンダとの仲も進展し結婚話も出て、サミーの計略で彼女が歌手であることがみなにバレても、ヘレンのことを気遣ったメイが当初の予定通りサミーとの結婚を決意した以上、ターとリンダとの婚姻を進めるだけだった……。ロジャース&ハマースタインのエスニック色濃厚な、純東洋キャストのミュージカルの映画化で、おっとりした梅木の芝居に象徴されるような和やかな雰囲気と、ジャズやR&Rと中華風旋律の“チャプスイ”感覚が、とっくに西洋化した音感と文化感を持つ身には何とも好ましい。ナンバーでよいのは、リンダがネグリジェ姿で三面鏡を見ながら唄う“I Enjoy Being A Girl”。ヘレンがターと霧の波止場で踊る幻想シークエンスや、サミーとリンダらがTVから飛び出した白黒のインディアンとガンマンと“追っかけ”する、やはり夢のシーンも面白く、サミーがメイに自分の欠陥をあげつけて唄う“Don't Many Me”は小粋だった。

【クレジット】

監督	ヘンリー・コスター	Henry Koster
製作	ロス・ハンター	Ross Hunter
原作	C・Y・リー	C.Y. Lee
脚本	ジョセフ・フィールズ	Joseph Fields
撮影	ラッセル・メティ	Russell Metty
音楽監督	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
作曲	リチャード・ロジャース	Richard Rodgers
	オスカー・ハマースタイン二世	Oscar Hammerstein II
音楽	ケン・ダービー	Ken Darby
出演	ジャック・スー	Jack Soo
	ナンシー・クワン	Nancy Kwan
	ミヨシ梅木	Miyoshi Umeki
	ジェームズ繁田	James Shigeta
	ファニタ・ホール	Juanita Hall
	ベンソン・フォン	Benson Fong